



LA NOUVELLE
N° 33
AUTOMNE

東京外語校友会
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-10
本郷サテライト 東京外語会気付
発行責任者 川口裕司 (1981/ 昭 56)
2024.10.1 発行

第 28 回 仏友会 総会

4月21日（日）、第28回仏友会総会・講演会を大手町サンケイプラザでハイブリッド方式で実施した（会場参加者38名、オンライン参加者10名）。

川口裕司会長(1981)の挨拶と会務報告の後、大谷恵子幹事(1978)による会計報告、及び富田和義幹事(1968)による監査報告が行われ、原案どおり承認された。川口会長による母校の近況報告と2024年度の幹事体制に関する説明で総会の部は終了。

続いて行われた講演では、伊藤朋子氏（1985、笹川日仏財団・東京事務局長）が「バリから東京への再挑戦―日仏航空史の1ページ」の演題で、「赤い翼」プロジェクトを紹介し、大好評であった。内容は、伊藤氏自身によるまとめ記事（下記）を参照されたい。懇親会では、参加者一同、久しぶりの対面での再会と会話を満喫した。

（幹事 中村日出男記）

パリから東京への再挑戦

—日仏航空史の 1 ページ



伊藤朋子 (1985/ 昭 60)



始まりは2013年1月に届いた1件の書類だった。軽井沢朗読館から「アンドレの翼」という企画書がフランスの公益財団に勤務する私の元に送られてきたのである。それは、フランス人飛行家、アンドレ・ジャビーの脊振山での遭難と村民の救出、日仏の女性の友情を描いたもので、2か国語の対話として朗読されるという内容だった。これに興味を抱き理事会に諮ったところ、理事の渡辺昌俊氏（1957/昭和32）が、かつて仕事で関わったニコラ・ジャビーからこのエピソードを聞いたことがある、というのである。アンドレはニコラの大伯父だった。渡辺氏の知らせにより、ニコラ・ジャビーは家族を伴い「アンドレの翼」の2013年パリ公演と、2014年の日本巡回公演に参加し背振・神埼市を訪れた。これが現在進行中の「赤い翼プロジェクト」誕生の瞬間である。

アンドレ・ジャッピー（1904-1974）はフランス東部ボーケールの名家に生まれた。「フランスのリンドバーグ」とも称され、多くの長距離飛行を成功させた飛行家である。1935年にはパリサイゴンを87時間30分で飛行し、新記録を樹立。これに



「フランスと写真と私」



三宅由紀 (1994/ 平 6)



「写真の誕生」はフランスにある。「写真」が発明される以前、「camera obscura（暗い部屋）」という、ピンホール・カメラの原理を持ち、出来た像を手でトレースするという、初期のカメラが登場した。像を手描きで写すところから、1827年（諸説あり）にフランス人発明家ニエプスが、8時間の露光を経て「世界初の写真画像」を作ること成功、後に共同研究者のダゲールにより、ダゲレオタイプ（銀板写真）として結実した。ダゲールが住んでいた通りは、その名を冠して Rue Daguerre（ダゲール通り）となっている。

このような写真の原点があるフランスには、綺羅星のごとく歴史的に著名な写真家がいる。アジェ、イジス、ブレッソン、ドアノー、ナダール、ブラッサイなど。写真を学ぶ者にとって、フランスは夢の国だ。以前、ロベール・ドアノーが好きというフランス人に何度か遭遇した。なぜなら、戦後の混乱期を必死に生き抜く人々の姿を活写したユマニスムの写真家だからと。コマーシャル写真の派手な印象が強い篠山紀信も、フランス・ユマニスムの写真家たちが好きだと語っていた。

また、毎年フランスで開催される国際フェア「Paris Photo」には、世界的に著名なギャラリー、写真関係の出版社などが参加する。1970年に数名の写真家によって始まり、今や10万人が参加する世界最大規模「Les Rencontres de la photographie d'Arles（アルル国際写真祭）」は、古代ローマ遺跡の残る旧市街を中心とした名所旧跡で行われ、各国の写真フェスティバルの先駆けとなった。フランス人写真家が発起人となり10年程前から始まった、日本の「KYOTOGRAPHIE」の源泉ともなっている。55回目を迎えた2024年のアルルには、「日本の風が吹いている」と言われ、ケリング主催の文化・芸術分野での女性の活躍に光を当てることを目的とした「ウーマン・イン・モーション」のフォトグラフィー・アワードを受賞した石内都を始め、世代もスタイルも様々な日本人女性作家たちの作品が特に注目されている。

挑んだのがサン＝テグジュペリで、その際リビア砂漠に不時着した経験が『人間の土地』に再現され、『星の王子さま』に結晶する。

ジャッピーは1936年、フランス政府が主催するパリー東京100時間懸賞飛行に挑戦、悪天候により佐賀県春振山に墜落。瀕死の重傷を負ったが、春振村の住民たちの迅速な救助と、九州大学病院での治療によって一命を取り留めた。4か月の療養を経て、ジャッピーは感謝の意を示すため東京へ向かい、朝日新聞社の飯沼・塚越飛行士に貴重な助言を与えた。これが彼らの「神風号」計画に寄与し、2人は94時間17分の世界記録を樹立する。

これらのエピソードは一度は歴史に埋もれたが、1980年代後半に佐賀市の児童文学作家、権藤千秋さんがこの話を発掘し、1991年に児童向けノンフィクション『飛べ！赤い翼』を出版。これを契機に、脊振村（現・神埼市）とジャッピーの故郷ボーケール市が1996年に友好姉妹都市協定を結んだ。その後交流が途絶えたが、2012年にセドリック・ペラン市長から交流再開を望む親書が届く。軽井沢朗読館の青木裕子館長が、40年来の友人でジャッピーの遠縁である木村ジェニーさんとともに2012年に創作した「アンドレの翼」がきっかけだった。2014年の日本巡回公演ではニコラ・ジャッピー一家やボーケール市長団が訪日した。

「アンドレの翼」の監修を務めた作家、高樹のぶ子さんは、この史実に興味を持ち、フランスでの取材を基に飛行士と看護師の恋愛ミステリー『オライオン飛行』を2016年に発表。同年、『飛べ！赤い翼』の仏訳も刊行され、友好姉妹都市提携20周年と遭難80周年を記念してペラン市長代表団が神埼市を再訪したことで、交流が一段と深まった。

一方、アンドレ・ジャピーが操縦したフランスの名機、コードロン・シムーン(写真参照)に魅せられた現役の旅客機パイロット、ステファン・ランテルは、モロッコで同型機を発見、友人と共に購入し、復元のための協会を2009年に設立した。副会長にニコラ・ジャピーを迎え、パリ郊外のポントワーズ飛行場で、仲間たちと共に復元作業に取り組んでいる。この飛行機を佐賀から東京まで飛ばし、アンドレ・ジャピーの潰えた夢を

私は外大で学んだことを自分の五感を使って表現してみたい、形にして見てみたいと思い、まず日本の写真学校に通った。当時はフィルム時代末期で、最初にモノクロフィルム・暗室作業を習うのが定石だった。習い始めてすぐに、張り切ってパリへ撮影旅行に出かけたのを皮切りに、海外へ撮影旅行に出かけるようになった。

フランスでは芸術としての写真の地位が高く、愛好家も多い。アートが身近で、古典と、日本ではあまり認識されていなかったコンポラとが共存し、ハイレベルな作品をそこかしこで目にした。郊外の寂れたバス停に、ドアノー展の宣伝ポスターが大きく貼り出されていた。一方で普段使いのショッピングモールの空きスペースに最先端のコンポラ写真が展示されている。通りがかりの小さな写真館のショーウィンドーには、著名な写真家の作品と見まごうような、質の高い家族写真が当たり前飾られていた。道端でカメラを向けると、嫌がる人もいる一方で、それぞれの持ちポーズがあり、自らカッコよく決めてくれる。

街角の日本人オーナーのDPE屋では、日本人・フランス人問わず、一般客で賑わっていると同時に、プロの写真家やカメラマンも行き交っていた。カメラ機材を探してfnacに行くと、日本製のカメラとプリンターが並んでいた。フランスには国立を始め多くの写真学校があり、最近パリにあるそのうちの一つにZOOM参加したところ、留学生の国籍は中国人・インド人が多く、日本人は少数とのことだった。パリに住み働いているフランス人の知人は、夏のバカンス中に日本を訪れ写真作品を撮影しているのだが、パリでは写真を撮る気持ちになれないのだそうだ。フランス滞在中によく行っていた食料品店の店主に、「日本では、みんな忙しくてちょっと息が詰まる」と私が言うと、「それはフランスも一緒だよ!」との返事が返ってきた。

ポツリポツリと出回り始めたデジタルカメラが、あっという間に主流となり、誰もがスマホできれいな写真を SNS で世界に即時発信という時代に突入した。写真表現の世界も、ストレートからデジタルを駆使したコンボラ、コンセプチュアルが主流へと変化している。しかし、どんなに時代が変わろうとも、私の今を確かめるために、繰り返し原点に立ち返ることだろう。

実現しようとするのが「赤い翼プロジェクト」である。

日本側でもこのプロジェクトを支援するため、2021年に実行委員会が発足。東大名誉教授の鈴木真二氏を会長に、青木裕子さんが副会長、渡辺昌俊氏が事務局長を務め、高樹のぶ子さんも委員として参加している。

復元されたコードロン・シムーンは 2025 年にフランス国内を飛行し、2026 年に佐賀から東京までの飛行が予定されている。1 人のフランス人飛行家の挑戦から始まった日仏の友情の物語はこうして今も紡がれている。



総会会場に直接参加した会員の皆さん

第 29 回サロン仏友会のお知らせ

今回は、過去と未来をつなぐ大切なサロン仏友会になります。コロナの時期はオンラインの活用で乗り切りましたが、コロナが落ち着いた今、仏友会は新たな問題に直面しています。

喫緊の課題である郵便料金の値上げや会員の減少への対応ばかりではなく、若い世代の参加を促すため、より開かれたコミュニケーション手段の活用が望まれます。

将来にわたって仏友会が会員の皆様の親睦を深める場であり
ますよう、現在新しい形を模索しています。

◆日時：2024年11月23日（土）14:30～17:00

仏友会改革説明会並びに懇親会

◆会場：主婦会館プラザエフ 4 階「シャトレ」
千代田区六番町 15

(JR 四ツ谷駅麴町口徒歩 1 分、東京メトロ丸の内線・南北線四ツ谷駅徒歩 3 分)

※今回は、オンライン配信はありません。

◆**内容：**来年度からの仏友会の運営方針変更について、始めに 30 分程度会員の皆様にご説明し、その後懇親会の場での意見交換を通じて、仏友会の抱える課題について理解を共有したいと思います。従来、秋のサロン仏友会は、ボジョレ・ヌヴオを楽しむ機会でもありましたが、今回は南仏 Pays d'Oc のワインをご用意いたしました。なお、オンライン参加者が少なくなった現状を踏まえ、対面での開催のみとさせていただきます。是非、多くの会員の皆様に初めての会場「プラザエフ」にお越しいただき、おいしい食事とワインで活発に意見交換をし、懇親の輪に加わっていただければ幸いです。

◆参加費：6,000 円
(会場で通信費 1,000 円 / 年もお受けします)

◆申込〆切：11月8日（金）
アドレス登録されている方には改めてご案内いたします。
未登録で参加ご希望の方も下記アドレス宛てにメールでお申し出ください。
(担当：江森尚子 naoko0304358@gmail.com)



ペットを連れた、移動式の手廻しオルガン弾き パリ 1999 年

ケベックのフランス語との出会い

近藤野里（青山学院大学准教授）
2010 年に外語の博士後期課程に進学して
早々、モントリオール大学に留学しました。モ
ントリオールに到着したときに初めて聞いたケ
ベック・フランス語は、それまで習ってきたフラン
ス語とは異なる響きで、大学院での授業が始
まるとそれ以前は理解できていたはずのフラン
ス語がなかなか頭に入ってこないという事態に陥りました。発
音にはすぐ慣れたものの、日常生活で使う語彙の方で苦戦しま
した。モントリオールに到着してすぐに、あるケベコワーズの
方が私の日用品を買うために案内してくれたのですが、「料理す
るなら chaudron を買わないと」と言い、金物屋で彼女が手に取っ
たのはフランスのフランス語でいう casserole に当たる片手鍋で
した。仏和辞書を引いたところ、chaudron は「つるのついた鍋、
釜」という意味で、同じ語彙でもフランスとケベックでは同じ
ものを示すわけではないと実感させられた出来事でした。ケベ
コワの友人の前で靴下のことを chaussettes と呼んだときには
(ケベック・フランス語のくだけた話し方では bas と言います)、
« Ton français est trop français. » と言われてしまい、ケベック・
フランス語習得の道のりの長さを感じました。フランス人の友
人が「職場の同僚が帰り際に je m'en vais ではなく je m'en va と

仏に翼

谷川徹三（2000/ 平 12）
2024 年 4 月 1 日から半年間放映された連続
テレビ小説「虎に翼」が大きな話題を呼びまし
た。このドラマは、日本史上初めて法曹の世界
に飛び込んだ女性の実話に基づいたオリジナル
ストーリーで、そのリアリティの高さが視聴者
を魅了しました。奇しくも 2024 年は女性初の
日本弁護士連合会会長と検事総長が誕生した年でもあり、一層
注目を集めることになりました。「虎に翼」のモデルとなった
三淵嘉子氏が 1940 年に第二東京弁護士会に登録してから 84
年が経過し、今では性別による職業や行動に関する差別が徐々
になくなりつつあります。波紋を広げたパリオリンピックの開
会式が世界に示そうとした多様性に関する考え方やフランスの
ことわざ< Il faut de tout pour faire un monde. >を実感する時
代になりました。
フランスが世界に示した思想といえば、記憶に残る出来事
があります。フランスが 1995 年 9 月からムルロア環礁において
核実験を行い国際的な批判を浴びたことがありました。記者会
見で当時のシラク大統領は核実験について安全が確保されてい
ることを強調しましたが、記者からそれほど安全ならばパリの
地下で核実験をしたらいいのではないかと尋ねられ、フランス
大統領としてそのようなことはできないと応じました。当時は
フランス語がわからず文脈も把握することができなかったのも
何かの冗談かと思う一方で、フランスの中華思想が現れた典型
的なエピソードであると印象深く覚えています。
私はいま、東京の新橋で弁護士をしています。訴訟代理人や
弁護人として法廷に立ち、裁判所から成年後見人や破産管財人
などに選任され、企業法務や刑事事件など様々な案件を取り扱
う町弁と呼ばれる典型的な弁護士です。外語大在学中はよくあ

外国人教師がつづる外語大の思い出（No.6）
Je me souviens de Gaigo

Baptiste PUYO（関西学院大学教授）
Lorsqu'on me contacta au printemps de l'année 2018 pour me proposer d'enseigner à l'Université des Langues Étrangères de Tokyo, je venais à peine de terminer mes études de linguistique à l'Université de Tsukuba. Ma décision, prise dix ans plus tôt, de venir étudier à l'étranger, précisément dans ce pays à la fois si exotique et si familier qu'est le Japon, s'était fondée sur le désir profond de découvrir le monde et d'en apprendre davantage sur les différents peuples et langues qui composent sa diversité. Étudier à l'étranger représentait pour moi une occasion précieuse de réaliser qui j'étais au fond de moi-même et de savoir quelle pouvait être ma place au milieu de ce monde globalisé sans cesse en mouvement. La réponse à ces questionnements, parce qu'elle réside dans la relation entre soi et les autres, me fut en partie apportée par les nombreuses rencontres faites durant l'écriture de ma thèse de doctorat entre Tsukuba et le pied de la tour Skytree, mais c'est en réalité Gaigo (j'ai tendance à préférer les acronymes Gaigo, Gaidai, Gaigodai plutôt que TUFs lorsque la conversation devient plus intime, pas vous ?) qui m'a donné l'occasion véritable de toucher du doigt les enjeux réels de mon parcours. Que pouvais-je effectivement espérer de mieux en tant que jeune linguiste passionné par les langues que d'avoir la chance extraordinaire d'enseigner mon propre idiome au cœur

言っていて、びっくりした。動詞の活用も正しくできないなんて」
と愚痴っているのを聞いたこともありました。調べてみると 17
世紀のフランスでは動詞 aller の直説法現在一人称単数形の発音
にはヴァリエーションがあり [ve] のみならず [va] という発音も
用いられていたので、je m'en va は昔の発音の名残と言えます。
このような言語体験から、私の関心はフランス語史やケベック・
フランス語の研究に向かっていくことになりました。
ヌーヴェル・フランス植民地で話されていたフランス語には
訛りがなく、パリで話されるフランス語と比べても遜色ないも
のであったという記述が残っているそうです。1763 年のパリ
条約でケベックがイギリス領になり、ケベックとフランスとの
交流が途絶え、2つのフランス語の間の隔たりは広がっていき
ます。19 世紀以降は都市で話されるフランス語に英語からの
借用語も混じるようになり、ケベックのエリート層がフランス
語の質の低下を嘆くようになります。エリート層がフランスの
フランス語を理想とする一方で、一般の人々は自分たちが話す
フランス語に劣等感を抱いたのです。しかし、1960 年代の静
かな革命や 1977 年のフランス語憲章の制定を経て、人々の言
語意識も徐々に変化し、ケベック・フランス語を好意的に捉え
ることができるようになったのです。ところで、英語への警戒
心が特に強いケベックの言語政策の特徴は、言語景観にもしっ
かりと表れます。2022 年に久しぶりにケベックを訪れた際
には、英語の商業用看板にはフランス語で事業の内容を併記する

る言語好き外語大生の学生生活を送りましたが、外語大卒業生
として多数派とはいいい難い弁護士という生き方を選択しまし
た。弁護士は、先のシラク大統領と記者のやりとりで例えれば
どちらの側の代理人になっても最善を尽くして弁護を行います。
国民を守るための核実験は安全なら許されるというフランス
の考えを前提にすると、核実験の安全性を基礎づける資料次
第でどちらの言い分が正しいかが決まりそうなどと考えたりし
ます。
「虎に翼」は韓非子の言葉で、ただでさえ恐ろしい虎に翼が
生えたら村里に飛んで行き人を襲うようになるという意味で
す。似つかわしくない人間に権勢を握らせたらそれこそ虎に翼
を添えたようになるという戒めの言葉です。「仏」語科で、言
語だけでなくフランスの思想や文化も学んだ私は、法律という
「翼」を得て、似つかわしくない人間の権勢に困り苦しんでい
る人をひとりでも多く助ける意気込みで、日々困難な業務に取り
組んでいます。

仏友俳句サロン 3

吉田林檎（「知音」同人）

シャンゼリゼー直線の寒さかな
黛まどか

2024 年パリオリンピックはいつもより熱く見
守った方が多いのではないだろうか。もちろん私
もその一人。開会式ではパリの街並が映るたび、
そこに行った記憶が鮮やかに甦った。現地での観
戦がなかった方もいるだろう。

de la tour de Babel qu'était pour moi le bâtiment central. Architecturalement semblable à une cathédrale, mais plus froid qu'un igloo l'hiver.
Mon bureau se situait au 6ème étage, duquel il était possible d'observer par beau temps le mont Fuji. Effet garanti. Mais au-delà de la vue de carte postale, ce poste à TUFs marquait surtout le début de ma carrière d'enseignant-chercheur. Ayant bien évidemment lu au cours de mes études les travaux scientifiques de Yuji Kawaguchi et de Hisae Akihiro, mes allers et venues à Tama signifiaient d'abord et avant tout de se trouver au contact quotidien de ces deux grands linguistes que j'admire. Malgré leur renommée de niveau international, ils m'accueillirent avec une humilité et une simplicité extrêmes, et me guidèrent avec bienveillance dans mon apprentissage du métier d'enseignant.
Le contact avec les étudiants fut immédiatement facile, peut-être en raison de la proximité de l'âge, mais aussi et surtout grâce aux étudiants. Car je pense qu'il s'agit là de ce qui marque certainement le plus celles et ceux qui ont la chance de passer une journée à Gaidai, a savoir la personnalité de ses étudiants, brillants, sérieux et passionnés. J'ai enseigné dans une dizaine d'universités du Japon, mais ce sont les étudiants du campus de Tama qui restent dans mes meilleurs souvenirs d'enseignant de français. Que sont-ils devenus ? De brillants scientifiques sans doute, de brillants enseignants, de brillants entrepreneurs, de brillants artistes, et que sais-je encore.
Aujourd'hui résidant dans la région du Kansai, je me remémore de temps en temps avec nostalgie mes deux années passées dans ce coin du Kantô. Entre autres souvenirs, je pense particulièrement à une matinée d'automne qui m'a fait

という新規則（2016 年改訂）の成果に注目しながら街を歩
きました。例えばアメリカの衣料品店 Old Navy の看板には mode
pour tous というスローガンが併記されていました。最後に宣伝
ですが、ケベックに関心を持たれた方は是非『ケベックを知る
ための 56 章（第 2 版）』（日本ケベック学会（編）、明石書店、
2023 年刊）を手にとっていただければ幸いです。



市場のメープルシロップ専門店

マルセイユに上陸した聖火はフランス全土を巡って革命記念
日にはパリへ。シャンゼリゼ通りを出発してパリ周辺を巡り、
点火はチュイルリー公園にて行われた。聖火の灯った気球は公
園上空へ。気球の先ではシャンゼリゼ通りが凱旋門まで一直線
に灯っていた。左岸にはエッフェル塔。何度見ても、どの角度
から見てもパリは美しい。
セリーヌ・ディオンの「愛の讃歌」には心が震えた。それに
刺激されてエディット・ピアフを久々に聴いてみたところ、繊
細にして情熱的な表現にまた別の感動があった。
今回はシャンゼリゼ通りをそのまま詠み込んだ俳句を紹介し
たい。季語は「寒さ」で冬。「一直線」はシャンゼリゼを形容
すると同時に一直線に吹く風も思わせる。あの広く長い通りを冷
たい風が抜け、コートの裾やショールを吹き上げる。場面によっ
ては悲しい気持ちになる「寒さ」であるが、この句においては
その寒さすら美しいものとして楽しんでいるようだ。それはシャ
ンゼリゼが 'La plus belle avenue du monde' だから。なおかつこ
の句にかかれば世界一美しい寒さというべきか。寒さのなかにも
ほのかな喜びが感じられるパリならではの一句である。
黛まどかはパリを拠点に欧州で活動中。2024 年、句集『北落
師門』で第 16 回文学の森賞大賞を受賞した現役の俳人である。
2019 年秋、当時パリに在住していた俳人の堀切克洋さんを訪ね
た際、まどかさん（俳句の世界では俳号またはファーストネー
ムで呼び合う）の蒔いた種から始まった句会に参加することが
可能と聞いた。次回は是非！と思っている間に世界は COVID-19
の猛威にさらされ、国内でも句会への参加が難しくなっていっ
た。疫病の収束を待たず克洋さんは帰国。会いたいと思ったら
すぐに会うことの大切さ思った。
※吉田林檎は江森尚子（1994/ 平 6）の俳号です。

croiser la route du génialissime Hayao Miyazaki, se baladant aux abords du parc Inokashira, livre à la main. Je me souviens également de quelques chaleureuses soirées d'été assis à la terrasse d'un café ou d'un izakaya jouxtant la gare de Kichijoji. Aujourd'hui, il m'arrive parfois de monter à Tokyo dans le cadre du travail ou de la recherche, je ne manque pas alors de faire un détour jusqu'à la gare de Tama. Je repense alors avec émotion à mes collègues de l'époque, à mes anciens étudiants et à ces deux magnifiques années à Gaigo qui ont définitivement bouleversé ma vie.

＜東京外語仏友会 2024 年度幹事体制＞（2024 年 4 月～）			
会 長：川口裕司（1981/ 昭 56）			
副会長：和賀千恵子（1970/ 昭 45）、中村日出男（1974/ 昭 49）、山崎るり子（1977/ 昭 52）			
幹 事：富田和義（1968/ 昭 43）、三浦房子（1976/ 昭 51）、大谷恵子（1978/ 昭 53）、鈴木洋美（1991/ 平 3）、江森尚子（1994/ 平 6）、谷川徹三（2000/ 平 12）、大杉あづさ（2013/ 平 25）			

＜2023 年度会計報告＞（2023.4.1 - 2024.3.31）			
収入		支出	収支差額
*1 前年度繰越金	835,439		
記念会費	198,000	総会費用	274,240
受取通信費（振替口座）	149,000	LA NOUVELLE No.30 発行費用	35,200
受取通信費（現金）	46,000	LA NOUVELLE No.31 発行費用	64,300
サロン仏友会会費	180,000	サロン仏友会会費	310,640
総合口座利息	4	大学語創お祝い金	30,000
		LA NOUVELLE No.32 発行費用	19,200
		ZOOM プロ 年間契約費用	23,375
		振替口座手数料/総合口座手数料	9,626
		通信費返金（現金）	1,000
合計	573,004	合計	767,581
*2 次年度繰越金	640,862		-194,577